

## 要旨

持続可能な社会（SDGs）を目指す活動が活発になっている昨今、環境に害があるとされているたばこは社会の中でどのような立ち位置に代わってきたのだろうか。世界保健機関（WHO）では、設立40周年を迎える1988年5月31日より毎年同日を「世界禁煙デー」と名付け、禁煙を推進するための記念日として制定している。日本国内でも、平成4年より毎年5月31日から一週間を「禁煙週間」として制定し、国民へ禁煙の働きかけを行っている。世界各国で種々のたばこ規制が行われており、室内全面禁煙や喫煙専用エリアを作るなど、積極的な分煙政策や、たばこにかかる税金を大幅に増額することで販売数を減らし禁煙を進める政策なども行われている。

日本を最大市場として近年繁栄している新型たばこについても、有害性など様々な実態に関して明らかにしていくことが必要であり、それらに対し迅速な規制等が必要となってくるだろう。喫煙者に対する風当たりが強くなりつつある社会に対し、適切な規制を行った上で、共生を目標として寄り添い合える社会の実現へと行動を起こしていかなければならない。